

平成18年度病害虫発生予報第10号(1月予報)

今月のトピックス

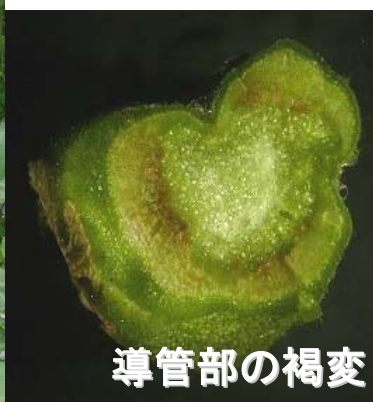
<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

トマト萎凋病

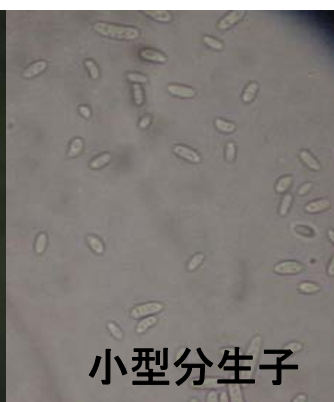
学名 : *Fusarium oxysporum* f.sp.*lycopersici*



発病株



導管部の褐変



小型分生子



茎から発生した菌糸

被害と対策

本病は始めに株の片側の葉が黄化萎凋するが、後に全葉が黄変し枯死に至る。茎の導管部は褐変する。胞子には三日月型の大型分生子と楕円形の小型分生子の2タイプがある。病原菌は土壤中で数年から10年以上も厚壁胞子の状態で生存する。種子伝染も知られている。防除法として抵抗性台木による接ぎ木栽培、抵抗性品種の利用、輪作による菌密度の低下、太陽熱消毒等の土壌消毒、被害残渣の圃場外持ち出しなどがある。

☆ 予報の見方 ☆

- 1) 発生予察情報は、前月の調査に基づき発生程度が「並」以上の病害虫を中心に掲載しています。「やや少」以下の病害虫については通常掲載していません。
- 2) 「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にしてください。